インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報に記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
メイカダイガク	ケイザイガクブ	オカムラゼミ
明海大学	経済学部	岡村ゼミ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
キッズンモート	モリシタ タクミ	5	無
Kid'n'Mort	森下 匠		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)

パワーポイント

研究テーマ (発表タイトル)

ベトナムにおける自動販売機設置ビジネスプランの策定および実施

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

私たちの研究テーマは、ベトナムにおける自動販売機設置ビジネスの策定および実施である。

このテーマを設定した理由は、私たちのメンバーの多くが、ベトナムでの出店やベトナムでの生活を経験してきた。その経験から、ベトナムでは安全で冷たい飲み物を容易に入手することが困難であるという共通認識にいたった。このように、私たちは、自らが実際に現地に訪れ肌で感じた問題点を取り上げる。また、副次的効果として、現在、ベトナムが抱えている食中毒等の衛生面の問題の改善にいくらかでも貢献したいと考えている。

私たちは、これらの問題を解決するための方策として、ベトナムに自動販売機を設置する計画を策定するだけでなく、現地のベンチャーキャピタルに提案し、前向きな回答を得ている。今後、計画をさらに改善し、実際にビジネスとして立ち上げていく。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

2016年の夏、私たちのメンバーらの何名かが、ベトナムでお好み焼き屋を出店した。その時に私たちが共通して感じたことが、水分補給の難しさである。日本と異なり、ベトナムでは安くて安全な水を手しにくく、コンビニやスーパーの数も日本ほどには多く

ないことが原因として考えられた。また、私たちのメンバー 5 名のうち 2 名がベトナムからの留学生であり、メンバー間で話しあったところ、ベトナムの留学生も同じことを感じていた。そこで、私たちは、こうした問題に取り組むことを課題とすることにし、ベトナムの現状について調べた結果、以下のことが明らかとなった。

1. 水質の悪さ

グローバルノートの調査データによれば、ベトナムの水質ランクは世界 180 カ国中 86 位、アジアでも 38 か国中 18 位であり、中位から下位に位置づけられている。これに対し、日本のランクは、世界・アジアともに 1 位であり、ベトナムとは大きな差がある（グローバルノート HP）。

2. 衛生意識の低さ

ベトナムの衛生状態および衛生意識についてインターネットで検索したところ、衛生状態・意識が悪いことを示すニュース記事を見つけることができた。しかし、ベトナム統計局やベトナム厚生省などの HP をみても、市民の衛生意識や生活習慣についての統計データは得られなかった。

このため、ベトナムの衛生意識や生活習慣について、ベトナム人を対象としたアンケートを実施した。その結果、「水道水を利用して氷を作成しますか」という問いに対し、およそ半数の人が「いつもする」または「ときどきする」と回答した。また、「入れ物や容器を使いまわしますか」という問いに対しては、およそ 6 割が「いつもする」または「ときどきする」と回答した。これらのことから、ベトナム人では衛生意識が低いということが分かった。

3. 安全な飲料を確保しにくい

ここでは、ベトナムにおける飲料水等の入手方法および価格の実態を把握するために、私たちは実際に現地に足を運んで調査を行った。その結果、水のペットボトル 1 本の金額は、個人商店で約 75 円、スーパーで約 35 円、コンビニで約 55 円だということがわかった。

このうち、個人商店では水のペットボトルを買わなくても、水道水であれば無料で水をもらうことはできるが、飲料に適したものでは必ずしもなかった。個人商店では、他の店と比べて水一本の値段が高いが、水道水は危険なので割高でもペットボトルを買う人が多かった。

3. 研究テーマの課題

以上のことから、ベトナムでは安全で衛生的な飲料水を安価で入手することが困難であることがわかった。私たちの研究テーマは、こうしたベトナムの問題の改善に貢献することである。ひいては、ベトナムにおける食中毒患者や熱中症患者の減少に少しでも役立つことができればと考える。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

他の事業と比べて、他社は、ベトナムの中心街および観光地に自動販売機を設置しており、学校、病院等、管理がしっかりしているところに設置をしている。コンビニやスーパーとは違って、自動販売機があればすぐにも買えるメリットがあり、金額低にもさほど変わらずに提供できる。そこで注目した設置場所というのがガソリンスタンドである。ハノイの人口の約 66 パーセントの人がバイクに乗っている。日本外務省『ベトナム基礎データ』そこでガソリンスタンドに置けば、多くの顧客を生むことができる。

ビジネスモデルとしたら、ガソリンスタンドに場所と電力を提供してもらい、地代は取らず設置をお願いする。売り上げの一割をガソリンスタンドに渡すためである。当社が補充、ごみの回収を行う。当社はジュースメーカーと提携を取り、大量に仕入れることで値段を安く仕入れる。顧客は現金で払うが今後としては、電子マネーをベトナムで普及し、電子マネーでの決済を可能にする。まだベトナム人は電子マネーの普及しておらず、今後の課題として、ベトナムだけではなく日本の電子マネー会社と提携を進めていく。

販売価格とすれば、他社商品と比較をし、水一本の販売価格はガソリンスタンドへの支払い手数料 1 割を除き 25 円、ジュースは 50 円で販売する。水とジュースの割合は水が 3 割、ジュースが 7 割で設置する。仕入原価を調査した結果、水 10 円、

ジュース20円で仕入れる。固定費が四台設置に対して36万1920円（年間）販売費および一般管理費は6万3600円（年間）つまり、損益分岐点は本数に直すと36本（一日一台売り上げ）で計算できる。

ガソリンスタンドの来客人数の1割だから十分に収益を獲得できる。ただしこの計算は一年目なので、二年目、三年目では利益が伸びてくる見込みがあり、台数を増やしていく。台数を増やし事業を拡大していくことで、より多くの顧客に飲み物を届けることができる。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

アンケート調査 実地調査 アーカイバル・データの分析 ほかのベンチャーキャピタルに企画提案をしている

- ① アーカイバル・データを細かく計算することで、長いスパンでの損益の差を調べだすことができた。
- ② ベトナム人29人にアンケートを取った。
- ③ ベトナム現地に足を運んで、実際の水の値段、自動販売機企業の実態、ガソリンスタンドの現状を調査した。
- ④ ベンチャーキャピタルに企画を提案し、改善点や反省点は指摘されたが前向きな答えがもたらえた。

6. 結果や今後の取り組み

ベンチャーキャピタルへの企画提案での反省点を踏まえ、企画を見つめなおし修正する。そこで資金援助を受け、事業化をしていくことが今後の取り組みである。

私たちは実際にベンチャーキャピタルへ企画をすでに提案している。そこでは、多くの反省点や別の問題点と課題が見えてくる。その課題を一つ一つクリアしていき、ベンチャーキャピタルに認められれば、実際に資金援助を受け、事業として行動していく。このインター大会でも他大学の発表を聞いて、良いところは真似をして、よりよい事業にしていく考えである。

7. 参考文献

ベトナム旅行専門店ベトカン王ウェブサイトの記事。<http://vietcam-oh.com>（2017年9月19日確認）

ベトナム観光庁『年間平均気温資料』、および、日本気象庁『過去の気象データ検索』。

厚生労働省『食中毒統計資料』 <http://www.mhlw.go.jp>

グローバルノート HP、水衛生ランキング、https://www.globalnote.jp/p-data-g/?dno=8853&post_no=12704（2017年9月19日）

日本外務省『ベトナム基礎データ』、<http://www.mofa.go.jp>（2017年9月19日確認）

総務省統計局『人口推計』、<http://www.stat.go.jp>（2017年9月19日確認）

ベトナム観光庁『年間平均気温資料』、<http://www.vietnamtourism.com/>（2017年9月19日確認）

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員（ビジネスパーソン・大学教員）の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インター大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経BPマーケティング社様に作製していただく大会結果HPに本企画シートは掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インター大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会（プレゼン局）にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限りません。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合は、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、提出してください